

1. 新生こどもえん の 教育・保育

◎教育・保育理念

児童福祉法の精神に基づき、『子ども達の最善の利益』を保証するために保護者や地域との連携を基に、子どもの人権と主体性を尊重し、生き生きとした保育者の豊かな人間性の陶冶と専門的な知識の向上に努め子育て支援を積極的に行う。

◎教育・保育目標

- ・保育目標： すこやか、ほがらか、おもいやり
- ・養護の目標： 生命の保持と情緒の安定を図る
- ・教育の目標： 友だちと仲よく意欲的に遊べる子、学べる子

◎教育・保育方針

子どもの持続的で健全な心身の発達を図るために保育関係者自身の豊かな人間性の陶冶と絶え間ない資質の向上を基に保護者や地域及び関係機関と協調しながら主体性を持って計画的、継続的、意図的に保育を展開する。

2. 本年度の取組結果

① 保育の質の向上

人と人との関りを大切にする中で、保育の質の向上を図った。

【子育て相談】

在園児の保護者からは、個別面談の際に担任が聞いた相談内容を、必要に応じ主任が対応する等した。また、すすく子育て広場において、未就園児を持つ地域の方からの相談を受けるなかで、幼いお子さんを持つ方のニーズを捉えることに努めた。

【近隣学校等の連携】

幼保小連携において、中央中学校教諭の一日保育体験の受け入れや、小学校（4校）の連絡会（授業参観含む）への参加、就学先小学校からの聞き取り対応をした。他には、各務原高校からのインターンシップの受け入れ（2名）、実習生受け入れ（4名）を通して地域の保育者養成に尽力したほか、各務原高校運営協議会への出席し、近隣施設との連携に努めた。

② 遊びを通し子どもの思いを捉え、子どもの心の育ちを促すことを重視した保育

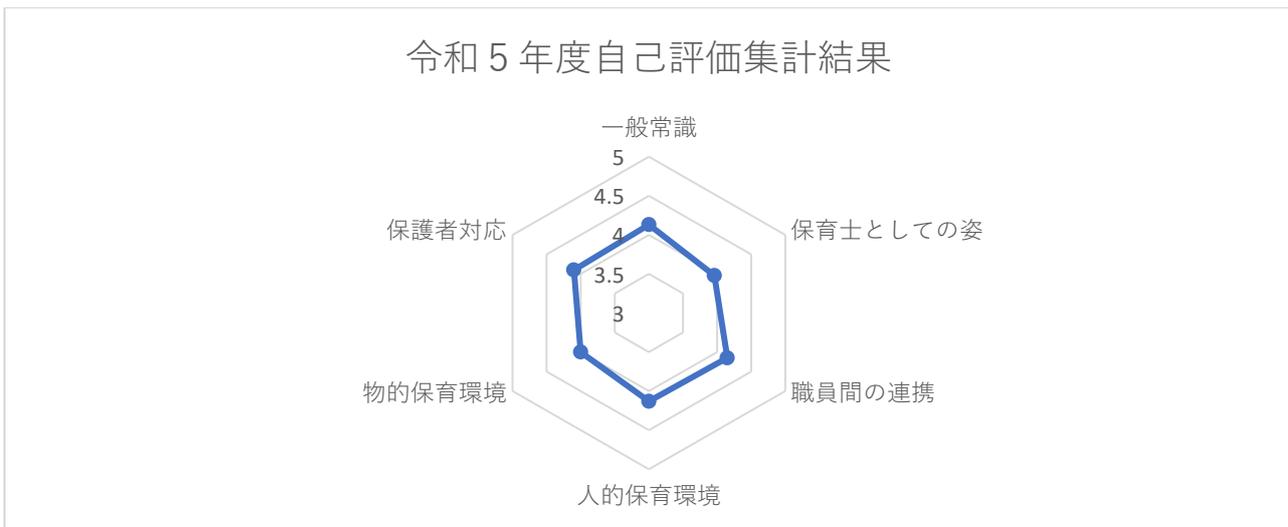
令和5年度から研究のテーマを新しくした（「遊びの中での子どもの思いを捉え、子どもの心の育ちを促す環境構成を求めて」）。子ども同士あるいは子どもと大人とのコミュニケーションの中で、人と関わる力を育てていきたい。子ども一人ひとりの好きな遊びを記録したり、通年通した異年齢児活動の中での子どもの成長を観察した。その中で、年長児が年少児を助け、年少児も自ら年長児に積極的に働きかけるという姿が見られるようになるとともに、3歳以上児のクラスの落ち着きがみられるようになった。今後も本研究テーマを継続する。

③ 災害時あるいは非常時への対応

社会福祉施設避難確保計画、保育安全計画、非常災害対策計画に基づき、避難訓練（引き渡し訓練を含む）や職員に対する講習を行った。今後も職員一同、災害や重大事故に対する危機意識をもって、日々保育に携わっていきたい。

3. 評価項目の達成状況

令和5年度末に職員を対象とした自己評価を実施した。その結果をふまえ、令和5年度の総括と令和6年度以降の課題をまとめた。



【本年度総括と来年度以降の課題】

① 一般常識

仕事をする人間として心構えについては、意識できている。今後の課題としては、各人が他者の見本になっているということを意識して行動できるようになりたい。

② 保育士としての姿

保育の専門職であることを踏まえ、日々努力し続けていく。今後も、子どもの発達を意識し、それに合わせた活動計画をたてていく。

③ 職員間の連携

職場内で「ありがとう」等の感謝の気持ちを言葉にする雰囲気ができている。保育に関して、報告・連絡・相談を徹底して、職員間の共通理解を増やすことで、より一層保育の質を高めていく。

④ 人的保育環境

子ども一人ひとりに対して愛情をもって接することができる。子どもが幅広い経験ができるような保育活動に取り組むようにする。

⑤ 物的保育環境

玩具を清潔に保ったり、安全な環境への配慮はできている。発達に合わせた動線へ配慮できるようにしていきたい。

⑥ 保護者対応

保護者からの要望や提案等を受け止めるよう心掛けている。今後もできる限り保護者と相談しながら子育ての課題解決に務める。

以上